

体育科教育学 ポスター発表

[11 教-ポ-09]学校体育におけるラグビーの教材設定に関する検討

○Katsuhiro Hirose¹, Takahito Kurohara², Toshihito Kajiyama³, Hiroyuki Kajihara⁴ (1.Kyoto Sangyo Univ., 2.Kyoto Women's Univ., 3.Asahi Univ., 4.Yamanashi Gakuin Univ.)

ボールゲーム系領域ゴール型において、現行中学校学習指導要領解説では、陣取りゲームの取り扱い（ラグビー）が初めて可能となった（文科省、2017）。加えて、小学校-中学校-高校の12年間の学びの一貫性の考慮が必須要件となったため、体育授業でラグビーは容易に取り組むことができると考えられる。ところが、ラグビーを扱う先行研究（実践研究）は数多く存在しない。その主たる理由は、陣取りゲームであるラグビーの授業づくりの難しさであるといえる。ゴール型のゲーム場面では、攻防が対峙する状況の違いから派生する〈攻め方と守り方の差異〉が存在する。それは、中盤を有するゴールを目ざすタイプ

（例：サッカー等）と、攻防が分離し相手と向きあい陣地を取り合うタイプ（例：ラグビー等）の2つの違いである。この2つの差異化に加え、ラグビーからラグビーに発展する過程では、守り方の手段に包含される身体接触（コンタクト）の導入過程に関する難しさもあげられる。そこで、本研究では、〈12年間の陣取りゲームの学習〉を目標としながら、先行する実践研究等を下敷きにしてラグビーのゲーム教材配列を行い、その内容に関する検討を行うことを目的とする。検討に関しては、ラグビーからラグビーへの円滑な繋ぎに関する視点及び身体接触（コンタクト）の導入過程を含むこととする。検討手順は、これまでの先行研究の確認を通して、ゲーム教材設定における課題の抽出を行い、ゲーム教材の仮配列を行う。その後、ラグビーの授業実践を継続的に取り組む小学校教師・中学校教師に対して、仮配列を行ったゲーム教材に関する実践上の課題についてヒアリング調査を実施する。上記過程にしたがって、課題抽出及び教材配列の改善点に関する整理を行い、授業実践を通じた検証のための基礎資料としたい。